

大島地区不登校等対策研修会

趣 旨

不登校等の未然防止，早期発見・早期対応のために大島地区の現状と基本的な考え方を学ぶことで，生徒指導担当者等の資質を高めるとともに，各学校での対応の充実に資する。

参加者

小中学校の生徒指導主任（係），養護教諭，SC，SSW，市町村教育委員会指導主事等

実施日

○8月6日(金) 徳之島会場 ○8月19日(木) 奄美大島会場 ※どちらもWeb開催

講 話

「不登校対策について」～SCとの連携，ケース会議の在り方を含めて～ 県スクールカウンセラースーパーバイザー 児玉 さら 先生

- 1 子どもの変化に気づく対応～不登校・別室登校の予兆に気づくポイント～（一部抜粋）
 - (1) 子どもの変化に気づく。（表情が冴えない，友達とトラブルがあった，部活に行きたがらない等）
 - (2) まずは言葉で，あなたの変化に気づいて心配しているよというメッセージを送る。
 - (3) 話をする。（気づいた変化を伝える，体調面から聞く，話したい気持ちがあるか確かめる。）
本人と話せない場合は保護者に連絡する。（気づきを確認する，一緒に解決する姿勢を伝える。）
 - (4) 子どもが欠席した場合は留意する。（実態をしっかり把握する，頭痛・腹痛の場合は注意する。）
- 2 SCとの連携，ケース会議の在り方
 - (1) カウンセリングはSCの専門性を生かして，頼るべき部分でしっかり頼る。遠慮せず連携を図る。
 - (2) SCにもケース会議に参加してもらい，助言してもらうことも有効である。
 - (3) ケース会議はそれぞれの立場からの情報や意見が集まるので，機を捉えて確実に実施する。

演 習

「事例を通した対応について」（グループ協議）

- 些細な変化に敏感になることが大切（顔色が悪い，居眠りをするようになったなど）
- 年間10日欠席があれば「多い」と感じるができるか。
- ジェノグラム（家族の関連図）を作成すると家族関係が分かりやすくなる。
- 問題を抱えている児童生徒については，家庭の状況や背景について発想を膨らませることができるか。（DV，虐待，ヤングケアラーなど）
- DVは表面に見えているものだけではなく，連鎖しているかもしれないという考えをもつ。また，DVの疑いがある場合は，面前DVがあることも視野に入れ，直ちに情報提供する。
- DVや虐待の恐れがある場合には，保護者への連絡は慎重に行う。

感 想

- ・ 児童生徒の何気ない言葉や行動から，敢えて疑うことも含めて様々なケースを想定することの大切さを感じた。
- ・ 生徒の変化に気づくためのポイントを学ぶことができた。全職員で実践できるように還元したい。
- ・ 演習事例を通して，様々な視点に気づくことと，ケース会議を開くことの重要性に気づくことができた。